

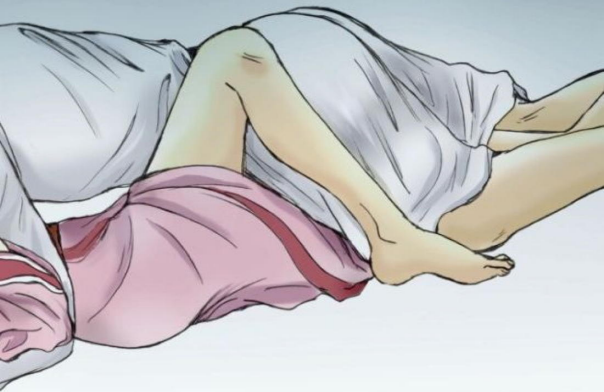
相聞歌

KINGDOM

王貴×蒙恬

18歳未満閲覧禁止





2014.10.12
変志隊
汐子

相聞歌

KINGDOM

王貴×蒙恬

18歳未満閲覧禁止



2014.10.12
壹志隊
汐子



やまないね



ザアアア



ピ
カ
ツ



このままでは
場りが遅くは
なるばかりだ



バカ言え

ゴロ
ゴロ...

怖い？



ねと
貪

害隠れしちやおっか

その一言に
たしかに撞らいた
自分の心を



もう一人の俺が
斬った



後悔など
するはずがない





ならば
なぜ



今俺は
あの日のことを
思い出して
いるのか？



これ以上
進んでは
命取りですぞ
後方に……



貴様！



この
ガキイ
ドガッ





蒙恬・主賁 十四歳 初陣



恬
!!

將軍の首を狙う刺客を
発見したこの事で
その奇襲部隊を討つべく
追って行かれ、行方が...



蒙恬様！
どこまで追って
行かれたんだ！

退却
命令
だ！



恬は！

申し上げます！
最前線の蒙恬様が
伏兵にいち早く
気付かれたおかげで
隊の被害は少なく
.....

ハ...
それが



この俺に速いなど
あるはずがないと
その思い込み自体が
過ちだったのか？

今度あいつを見失ったら
俺は一生、自分を
恨むことになるかも知れん



貴様！
退却命令
ですよ
どこへ！



こんなガキ
一匹に
精銳部隊が
やられる
とはなア

城かと思っ
て
ビビったぜ



手間取らせ
やがって!!

ガッ



だが見ろ!
こんな上玉
女でも滅多にや
いねえ!



今のうち
たっふり
御しんで
おこうぜ!
クタクタ!

そうだな
後んなつらや
俺らにや回って
こねとからな



今遊んどく
か? なんせ
捕虜にしたら
上官の玩具だ



カツ



恐ろしく
腕を
上げたな

あいつは
好戦的な
奴では
なかったが



6人目……

策話が
仕留めたのだらう
急所のみを
一撃で捕えている

あれ以来
一度も会わなかった
この3年の間に

あいつなりの
覚悟を
したのでらうな

というより
せざるを得なかった
のだらうが

よー
久しぶりー
お前も
初陣？

出陣前

天下の大將軍への
第一歩だな
王貴！

ああ…

じゃ 死ぬなよ

サ
ツ

……
オイッ

あの時の俺の言葉が
きっかけて
悟は変わったのかも

もはや俺のことなど
必要としないのかの
ように

オラ もっと
力抜けよ…

カッ
カッ







お前も
無事だった
んだ……

お前……



良かった……



じーちゃんのとこまで……
連れてって……

おい！
恬！！



刺客は全員殺った



矢傷か
どこかで
まず
処置をせねば
……



何があった
……
？



その中
に妙な
動きが
連中が
いかに
なてな
っ殺す
部隊が
思っ
てみる
たら
案の定
……



そっか……
初日は撤退で
終わったか

ああ 気長に
平定する予定
だったのだから
晋陽には案外
手強い援軍が
集まっていた
ようだ



初陣でよく
そんな無茶が
できるものだ
貴様は……!



草
葉
かなりの手練れ
数人を一人で
進めたのか



王貴 俺達はまだ
ヒラ兵士だ
だから自由が
お前だつて
周りが止めた
のに
独断で最前線
へと
来たんだろ?



ありがと……



そうだ 後方で
守られていては
実戦を学ぶ意味が
無いだろう
だから志願した
真っ先に武功を
上げてみせる

アハハ
言うと思った
ヤル気満々
だね!



俺は
じーちゃん
守るためだ

同じ行動
してても
理由は
違うな

だから

どんな目に
遭ったって
死ねない



……お前

奴らに
何を
された!?



あははは

はぎ取られ
ちやつた

あくコレ？
みっとも
ないだろ

答える！！

……ん、
お察しの通り

って言っても
永遠だから。
輪森されそーに
なったけどさ

汚ねー指
突っ込まれたり…

あいづらさあ
いざ！って時に
すっかり顔抜け面で
隙だらけだったから
腰の刀奪って
あっさり殺っちゃっ
たよ！ どんだけ
油断してんだか

いるんだな
ああいう事
でも建中！
思かっただれ

ハハハ！

あいづらの
顔抜け面
お前にも
見せてやり
たかった
なあ！

笑い事じゃ
ない事じゃ
だろー！！

ハ？

何でお前が
怒るの？

……っ！
お前が！
情けない
からだ！

そんな格好で
甲冑も付けず…
だから女に
間違われるんだ



何故お前は
俺と同じ
場所に来た!?

え……?

何故……

何だよソレ
襲われる
俺が悪いっ
ての?!

あ? 甲冑?
重くこ
ムソイ

奴ら、俺が
男だって
分かって
喜んで……



……
いや……



俺は
どうか
している……



ここは晉陽城の
裏の山だ
敵の陣中も
同然

陽のあるうちは
動かん方が
良い

……
そっか



……水を
汲んで
くる!

でも……王貴
早く戻らないと
みんな心配してるとよ



だが
そんなことを
願う方がおかしい



文官か せいぜい軍師であれば
あの頃のあいつのままで…



豪家の嫡男と
しての自覚が
ようやく
奴にも
芽生えたのだ

ならば武の道に
進むのは
真つ當な事だ

俺の言葉が
そうさせたの
だとしても



後徳など
するはずが
……

ザッ
ザッ



家恬 やはり
すぐには
ここは動け…



!!



見回りの越兵か
夜になるまでは
この山を降りる
のは至難だを











ありがとう...



外はまだ趙兵が動いている

.....

どのみち夜が更けるまでは動けんからな俺が見張りをして



相当な恥辱を受けたのだ

未遂とは言え...



もっと早く見つけてやっつていれば



この想いはなんだ



こいつに触れた男ども全て八つ裂きにしてやりたかった



俺にとって蒙恬は 何なのだろう

王一族宗家の嫡男
俺は名家を継ぐ者として育てられた

受け継いだ血統 恵まれた環境
体力 知力 自らの全てが誇りだった



だが 天授の才に慢心することは
俺自身が許さなかった

俺の責務は ただ家名を背負うだけではない

俺には



進めねば
そしてば
越えねば
人がいた



なぜ めったに
おこえをかけて
くたさらないの
だろが

父のそれは
俺への
無限の期待
なのではないか……
と 思わずに
いられたかった

無言の圧力に負けぬよう
修練を極めた



いつからだろう
その重さが
ほんの少し
軽くなったのは



初めて
同年代の子供相手に
負けた



「懐かしさ」
そして
「楽しさ」を
覚えた
好敵手の
存在は
俺を
今までよりも
段速いに
強くした



そんな時間を
感じる相手
それが
蒙恬だった



俺が目指すものと
蒙恬の存在は
最も対極のところ
にあるように思えた
無性に反対側
に
行きたがる自分を
本来の俺が
押え込もうとしていた



貴様
鶴先が乱れて
おりますぞー！



だが そうすればする程
抗えば 抗う程に――





話……



何れかも踏んでお前と――

なんてね
冗談！
あは……



そんな話をして何になる？
俺はお前とは違う――

話に対するその一瞬は俺が俺ではなくなりそうになって



例えば……俺達の将来とか

だけど……もう少し一緒にいようって話したい

だめだ……!!



もし俺達が士族に生まれなかつたら……とかさ

俺の
進むべき
道はただ
ひたすら

遊ぶことしか
考えない奴に
俺の邪魔は
させん！

こんな感情など
……得さなど
必要ない！

俺は
一人で帰る

今更には
俺が拒絶したのは

顔も知らない
もう一人の自分
だったのかも知れん

おれが
死ぬことが
おれになり

戻った……が
既にそこには
俺はいなかった

後日 一家に喧嘩したところ
俺は一人で無事 屋敷に戻った
そのことだった
それ以来
俺が俺を訪ねてくることは
なくなった

その翌年
俺は軍師を校に……
俺は……
武の道を……
思っていた
まさかこんなに早く、それも
同じ場所で再会するとは

ずっと 会いたかった

忘れようと断ち切ったはずが
一日たりとも忘れられぬ
存在になるとは



皮肉も
良いところだ

甲冑を
付ける



ド
キ
王貴

踏の音が
聞こえる

振動か？
よく
分かったな

敵か味方が
分らない
けど
近づいてくる



逃げろ
王貴





俺一人だと？
貴様は
どうする
つもりだ

今の俺は
まともに動けない
足手まといになる



お前一人なら
闇夜に紛れて
山から出られる
今しかない
……行け



バカ！ お前を
残していけるか
……！！

冷静になれ王貴
今敵に遭遇すれば
共倒れだ
そんなのは
ゴメンだよ



何が何でも
連れていくぞ！！
俺はもう二度と
……



俺を
見くびる
な！

ガッ

そこまで
役立たずだと
思うのか？

室外、味方が
探したのかも……
俺はそっちに
賭けてみるよ

二度と…何？

何の話？

俺を助けにきて
くれたのは
感謝してる

でも俺は
お前の重荷には
なりたくないよ

恬…

お前は
大将軍に
なる人間だ
こんな所で
命を
落とすな

お前の道は
ただひとつ
なんだろ？
踏み誤るなよ

貴

ドクン



俺の助けなど
必要ないぞ——

ドゥン



早く行けよ

ドゥン



……

もしこいつが
ここで敵に
見つかれば



あるいは——



ドゥン……



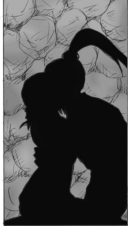
ドゥン



そんなことは



俺の



自分が自分でなくなる瞬間



後編に続く